

大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択）中間評価結果

| | |
|---------|--|
| 大 学 名 | 南山大学 |
| 整 理 番 号 | AA09 |
| 事 業 名 | 日米をつなぐ NU ⁴ -COIL ² ～地域に根ざしたテイラーメイド型教育プログラム～ |

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

| | |
|--|---|
| 総括評価 <b style="font-size: 2em;">A | これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。 |
| コメント | <p>本プログラムは、海外相手大学との連携協力による COIL 型授業と留学プログラムを連動させ、「ベーシック COIL」、「アカデミック COIL」、「PBL COIL」の 3 つのプログラムを学士課程の幅広い学年に展開することにより、日米間のみならず世界が直面している問題を能動的に解決できる人材育成を目的として実施している。</p> <p>インターンシップにおいては、日米双方でそれぞれの地域の特性を活かし、産官学との連携を活用している点は評価できる。また、学内運営委員会に加え、外部有識者による外部評価会議を設置し、委員からの意見や助言を受けて、次年度に向けた改善や新たな連携の形を議論する体制を構築している。共通評価基準であるルーブリックを海外相手大学と共同作成してプログラム学生の成績評価に活用している点や、クォーター制度の導入により米国の大学との学生交流を円滑に進める体制を整えた点は評価できる。</p> <p>一方で、ルーブリック作成により共通評価基準は明確にされているが、貴学及び海外相手大学の各教育組織における成績分布などを分析し、共通評価基準の妥当性の再確認や、各組織における教育内容改善へのフィードバックが望まれる。また、愛知学長懇話会連携 51 大学へ COIL 型授業科目を開放し、他大学の学生の履修がなされるなど、開かれた大学としての姿勢を示しているが、他大学の学生を含めより多くの学生履修がなされるよう、創意工夫に期待したい。交流学生数は、中間評価実施時点までの数値目標を達成しているが、学生の関心を引くために、引き続き工夫が望まれることに加えて、修了生の中から、本プログラムを大学の外から支えるような人材が輩出されることを期待する。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p> |